

# ロボサッカー 競技規則 2009

## 【注意】

この競技規則に特筆されていない部分については、一般常識および実際のサッカーおよびフットサルの競技規則に準ずるものとする。

## 【競技のピッチ】

- ・4.5m×3mの白線で囲まれたエリアとする。
- ・ピッチの材質はパンチカーペット、白線は布テープとする。

## 【ボール】

- ・ジュニア用硬式テニスボールとする。
- ・公式球は下記のものを使用する。ただし個体差はあるものとする。
  - メーカー：Slazenger（スラセンジャー）
  - 商品名：mini tennis orange
  - 直径：約6.5cm（個体差がある）
  - 重さ：約48g（個体差がある）
  - 色：オレンジ
  - 取扱店：スポーツショップゼビオ 他

## 【ロボットについて】

- ・ロボットの規格については、別の【機体レギュレーション】にて述べる。
- ・ロボットは、各ロボットが同一チームであることが識別できるようにすること。
- ・ゴールキーパーのロボットは、それが明確に分かるようにすること。

## 【ロボットの移動について】

- ・ピッチ上でのロボットの移動は2足歩行を原則とする。
- ・前転、後転、側転等の移動は禁止しないが、他のロボットに接触した場合は、危険行為として反則とする。

## 【ロボットの台数】

- ・1チーム4台（1台はキーパー）とする。交代要員は1台まで。
- ・試合開始時にゴールキーパーのロボットを審判に申告すること。

## 【試合方法】

- ・4台のロボットから構成される2つのチームによって試合を行う。
- ・試合時間終了時に相手チームより多くの得点をしたチームを勝ちとする。
- ・予選リーグで両チームが同点の場合、試合は引き分けとする。
- ・決勝トーナメントで両チームが同点の場合、3分間の延長戦を行う。
- ・延長戦ではどちらか先にゴールした方が勝者としその時点で試合終了とする。
- ・延長戦でも勝敗がつかない場合は、延長戦終了時に相手チームのゴールに近い方のチームを勝利チームとする。
- ・決勝戦の場合のみPK戦を行う。
- ・PK戦は試合終了時にピッチ上にいたロボットのうち、ゴールキーパーをのぞく各3台のロボットでPK戦を行う。
- ・3回のPKにおいて決着がつかない場合はサドンデス方式で行う。

#### 【試合時間】

- ・予選リーグ、結晶トーナメントは1試合5分間とし、前後半およびハーフタイムは無い。ただし、決勝戦と3位決定戦のみ前後半5分間とし、ハーフタイムは1分間とする。決勝トーナメントにおいて5分間で決着がつかない場合は、3分間の延長戦を行う。延長戦では、先に得点を得たチームを勝利チームとし、延長戦で決着がつかない場合、試合終了の笛がなった時点でボールが自陣にあるチームを歯医者になってます。
- ・試合中のタイムアウトは行えない。ただし審判の判断で一時中断する可能性はある。その場合、審判の判断でロスタイムを取る場合もある。
- ・ロスタイムは取らない。

#### 【ロボットの交代について】

- ・ロボットの交代について、回数および再入場に関する制限は無い。
- ・ロボットの交代する場合は、事前に審判に交代の意思を伝え、試合が中断した時に
- ・審判の指示に従って速やかに交代を行うこと。

#### 【試合開始について】

- ・試合開始のキックオフは、代表者同士のじゃんけんで決める。
- ・キックオフが行われるまでは、各ロボットは相手エリアおよびセンターサークル内に侵入してはならない。
- ・~~キックオフは審判の試合開始の合図の後10秒以内にボールを蹴らなければならない。~~
- ・キックオフからの直接ゴールは認められる。

#### 【試合中について】

- ・試合中に反則が行われた場合は、相手チームにフリーキックを与える。

- ・フリーキックを行う際、~~審判の合図の後10秒以内にボールを蹴らなければならない。~~  
~~その際、~~相手チームのロボットはすべて500mm以上離れなければならない。
- ・~~混戦で10秒以上ボールが動かなかつた場合は、審判の判断でニュートラルスタート~~  
~~(全てのロボットはボールから500mm以上離れる)を行う。~~
- ・ロボットが絡み合う、もしくはボールがロボットに引っ掛かった場合、審判の判断でニュートラルスタートで再開する。その際、すべてのロボットはボールから500mm以上離れなければならない。
- ・試合中の転倒において~~10秒以内~~に起き上がれないロボットは、審判の判断でピッチ外に退場させる。再入場の際は、審判の許可を得てフィールドに再入場すること。
- ・他のロボットが折り重なって起き上がれない場合は、審判が機体を分ける。
- ・ペナルティエリア内のゴールキーパーのロボット以外はロボットの手はボールに触れてはならない。ボールに手が当たったことで優位になったと審判が判断した場合は、ハンドの反則とする。

#### 【ペナルティエリア内のロボット台数制限について】

- ・ペナルティエリア内では、同一チームのロボットは1台しか入ってはいけない。
- ・ペナルティエリア内に同一チームのロボットが複数いる場合は、速やかにどちらかのロボットがペナルティエリア外に出なければならない。
- ・~~審判の指示に従わず、ペナルティエリア内に同一チームのロボットが複数いる状況が続く場合、複数のロボットすべてにイエローカードを与え、相手チームによるキックオフから試合を再開する。~~
- ・審判の指示に従わず、ペナルティエリア内に同一チームのロボットが複数いる状態が続く場合、そのすべてのロボットに非紳土的行為の反則とし、イエローカードを与える。試合の再開は、反則を犯したチームの攻撃時・守備時を問わず、相手チームによるペナルティーキックにより再開する。
- ・ペナルティエリアに侵入しているかどうかの判断は、ペナルティエリアの白線を踏んでいるかいるかどうかで判断をする。足の一部でも白線に乗っている場合は、侵入しているものと判断する。

#### 【ボールアウトについて】

- ・タッチラインからボールが出た場合は、相手チームのキックインで再開する。
- ・キックインから直接得点することはできない。
- ・キックインで相手ゴールに直接入った場合、相手チームのゴールキックで再開する。
- ・キックインで直接オウンゴールした場合、相手チームのコーナーキックで再開する。
- ・ゴールラインからボールが出た場合は、ゴールキックもしくはコーナーキックで再開する。

- ・ゴールキックからの直接ゴールは認められない。
- ・コーナーキックからの直接ゴールは認められる。
- ・オフサイドは適用しない。

#### 【ゴールについて】

- ・ゴールポストの内側とクロスバーの下をボールの全体がゴールラインを越えた時にゴールと認め1点を与える。
- ・ゴールからの試合再開は、相手チームのキックオフから再開する。
- ・ゴールキーパーのスローイングによる直接ゴールは認められない。

#### ~~【キックのやり直しについて】~~

- ~~・キックオフ、ボールキック、キックイン、コーナーキックなどアウトオブプレー時からの復帰の場合、ボールを蹴ったロボットは他のロボットが触れるまでは、再びボールに触れることは禁止されているが、ボールを蹴ったかどうかの判定は、停止していたボールが半回転(0.5回転)したかどうかで判定するものとする。~~

#### 【審判について】

- ・試合は、任命された試合に関して競技規則を施行する一切の権限を持つ主審によってコントロールされ、審判への抗議はこれを一切認めない。
- ・副審は主審が競技規則に従って試合をコントロールすることを補助する。
- ・副審は、その試合が行われる前の試合の勝利チームより1名選出する。そのチームから主審を選出している場合は敗者チームより副審を選出する。

#### 【主な反則について】

主な反則の名称とその内容を以下に示す。

- ・ハンド : 故意にロボットの手にボールが当たった場合。
- ・チャージ : 他のロボットに激しく接触した場合。
- ・ディレイ : 故意に試合の進行を遅らせた場合 (遅延行為)。
- ・ダブルタッチ : ~~ゴールキック、キックイン、フリーキック、ペナルティキック~~において、それを行ったロボットが、他のロボットがボールに触れる前に再びボールに触れた場合。
- ・マルチプルオフフェンス : ペナルティエリア内に攻撃側のロボットが複数いる場合。
- ・マルチプルディフェンス : ペナルティエリア内に守備側のロボットが複数いる場合。
- ・キーパーチャージ : 直接および間接的にゴールキーパーに物理的圧力を加えた場合。
- ・非紳士的行為 : 審判の指示に従わない等競技者として相応しくない行為をした場合。

### 【ペナルティキックについて】

- ペナルティエリア内で守備側のチームが反則を犯した場合、攻撃側のチームにペナルティキックを与える。
- ペナルティキックは、ペナルティエリアの白線上、ゴールの正面から行う。
- ペナルティキックの際、キックをするロボットおよび守備側のゴールキーパー以外のロボットは、ペナルティエリアのラインよりもセンターライン側にいなければならない。
- ペナルティキックにおいて蹴られたボールは、ゴールキーパーのロボットが触れる、もしくはゴールに接触するまでは、ボールをキックしたロボットを含め他のロボットはボールに触れてはいけない。もし守備側のロボットが触れた場合はペナルティキックのやり直しを行う。攻撃側のロボットが触れた場合は、フリーキックにより試合を再開する。

### 【深刻な反則について】

- 反則の内容が深刻な場合、審判はイエローカードもしくはレッドカードを与える。
- イエローカードは2枚、レッドカードは1枚でその試合について退場処分とする。
- 退場処分によるロボットの欠員補充は認めない。
- 退場処分になったロボットおよびそのオペレータは次の1試合は出場できない。
- 競技に相応しくない攻撃モーション（パンチ等）を発動させた場合、味方および相手チームのロボットに当たった場合はレッドカードを与え、即退場処分とする。当たらなかった場合はイエローカードを与える。

### 【他の大会との違い】

- タッチラインを超えた場合のリスタートについては、スローインを禁止とし、すべてキックインとする。
- 転倒からの立ち上がり中のロボットにボールが当たってゴールした場合はこれを認める。ただし、腕に当たった場合はハンドの反則とする。
- ゴールキーパーがボールに一定時間触れている場合に適用されるキャッチング判定は行わない。ゴールキーパーがキャッチングする場合は、自力でボールを保持する必要がある。ただし、攻撃側のロボットがボールをゴールキーパーごと押し込むような行動をした場合は、厳しくキーパーチャージの反則を適用する。
- ~~キックオフについてはダブルタッチを適用しません。したがって、キックオフから連続してドリブルを行っても問題ありません。~~
- 今大会において、ダブルタッチの反則はペナルティキックを除き適用しません。したがって、キックオフ、キックイン、ゴールキック、コーナーキック、フリーキック時において、キックではなく、そのままドリブルを開始しても問題ありません。

**【履歷】**

2. 2009年11月20日 更新
1. 2009年10月14日 新設